

シリーズ：大超寺に眠る先人達 (1)

田中善助翁と「新しい時代の公」



田中善助 (1858 - 1946) 実業家。安政5年伊賀上野に生まれ、金物商田中善助の養子となる。新田開発、発電所建設、鉄道敷設、産業振興などの事業に天与の才幹を発揮し、伊賀地域に近代の開幕を告げた。卓越した趣味人としても知られ、雅号は鉄城。昭和21年3月28日、八十七歳で死去。葬儀は31日、大超寺で営まれた。地域の個性を活かして独自の産業と文化をつくりあげることがめざした田中善助の生涯は、市民の社会参加による地域主義の実現に貴重な示唆をもたらす。昭和19年刊行の自伝『鉄城翁伝』は、財団法人前田教育会が平成10年に出版した『田中善助伝記』に収録。

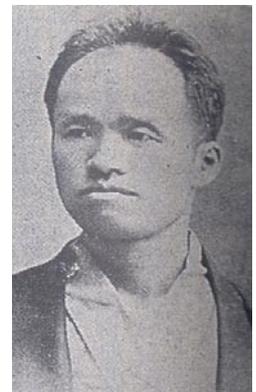
『鉄城翁伝』細目

生い立ち／田中家に入る／相続／病気療養／月瀬保勝会／風景保護請願／治水事業／開墾事業／伊賀上野銀行／大和街道／伊賀公義会と日本赤十字社事業／上野公園／巖倉水電株式会社／近江水電／関西水力／伊和水電／比奈知川水電／上野町秀才養成奨学資金／伊賀鉄道／機業伝習所の失敗／伊賀傘同業組合／米騒動／大超寺楽善会／支那旅行／朝熊登山鉄道／代議士候補辞退／伊賀窯業／下水道／菅原神社社殿移転問題／榊原温泉／禅と茶道／靈感／和歌／追記

田中善助略年譜

『鉄城翁伝』収録の「年譜」から抜粋。年齢は数え年

安政5年(1858)	1歳	十月五日、上野町相生町、竹内長兵衛長男として生まる。幼名、覚次郎。
明治5年(1872)	15歳	六月一日、叔父田中善助の養子となる。
12年(1879)	22歳	養父死去、家督相続、家業金物商を営む。
16年(1883)	26歳	八月、大和街道道路改良社道路竣工。
17年(1884)	27歳	上野商会設立、幹事となる。
22年(1889)	33歳	病気療養。
24年(1891)	34歳	月瀬保勝会設立。
25年(1892)	35歳	風景保護請願書を帝国議会へ提出。
27年(1894)	37歳	七月、三重県へ水源涵養建議書を提出。服部川上流村落へ杉の苗三万本を贈り、植林せしむ。
28年(1895)	38歳	上野町に公園委員会を設置せられ、委員となる。
29年(1896)	39歳	水力電気の計画せしも成立せず。十月、伊賀貯蓄銀行設立、副頭取となる。
30年(1897)	40歳	上野青年会発会式において水力電気の国家事業なることを述ぶ。



▲ 35歳当時の善助

2006年10月15日

大超寺

明治 31 年 (1898)	41 歳	一月、伊水電力を設立せんとせしも成らず。中尾谷の溜池を改修す。勝田谷大池の築造に着手。	
32 年 (1899)	42 歳	野畑開墾。七月、勝田谷大池竣工。	
33 年 (1900)	43 歳	山畑白藤滝を水源とする発電計画せしも、灌漑用水問題にて中止。	
34 年 (1901)	44 歳	中瀬村荒木高塚池改修。	
35 年 (1902)	45 歳	九月、巖倉水電工事に着手。	
37 年 (1904)	47 歳	二月、巖倉水電竣工、開業式挙行。	
38 年 (1905)	48 歳	巖倉水電を株式会社とし、社長となる。近江水電水利出願。関西水力電気設立、常務取締役となる。	
39 年 (1906)	49 歳	青蓮寺川水利使用願提出。	
40 年 (1907)	50 歳	三重共同電気株式会社 (伊和水電株式会社) 設立、社長となる。近江水電株式会社設立、取締役となる。	
41 年 (1908)	51 歳	伊賀機業伝習所を設立せしも、少時にして止む。	
42 年 (1909)	52 歳	三重共同電気を津電灯株式会社へ合併し、同社取締役となる。	
43 年 (1910)	53 歳	七月、上野商工会会長に当選す。	
大正元年 (1912)	55 歳	十月、伊賀軌道出願。	
2 年 (1913)	56 歳	上野町会議員当選。	
3 年 (1914)	57 歳	伊賀軌道認可、会社設立、取締役に就任す。大超寺本堂焼失。	
5 年 (1916)	59 歳	伊賀軌道開通。	
7 年 (1918)	61 歳	伊賀鉄道出願。伊勢電気鉄道取締役となる。伊賀傘同業組合を設立し、組合長就任。上野町秀才養成奨学資金一万円寄附。比奈知川水力電気会社設立、社長となる。	
8 年 (1919)	62 歳	伊賀鉄道認可、伊賀軌道と合併、六十五万円の伊賀鉄道会社とす。	
9 年 (1930)	63 歳	伊賀鉄道社長および伊賀上野銀行頭取となる。朝熊登山鉄道出願。	
10 年 (1921)	64 歳	朝熊鉄道認可、会社設立、社長となる。	
11 年 (1922)	65 歳	六月、比奈知川水電竣工。七月、伊賀鉄道全通。伊賀上野銀行を百五銀行に合併解散。	

▲巖倉水電架橋工事 (明治 36 年 5 月)

▲青蓮寺川水電起工式 (明治 40 年 11 月)

▲再建された大超寺の本堂

大正 12 年 (1923)	66 歳	伊賀窯業株式会社設立、社長となる。
13 年 (1924)	67 歳	四月、上野町長に就任。上野商工会長辞退。 伊賀窯業にてテラコッタ製造を始む。
14 年 (1925)	68 歳	八月、朝熊登山鉄道開通。
昭和元年 (1926)	69 歳	五月、伊賀鉄道全線電化。楽善会設置、大超寺寺門興隆を図り、知恩院門主より表彰せらる。
2 年 (1927)	70 歳	上野町下水道工事に着手す。
3 年 (1928)	71 歳	上野公園内に愛間亭を建つ。下水道工事費中へ二万円寄附につき賞勲局より紺綬褒章下賜せらる。
4 年 (1929)	72 歳	御大典記念に上野公園内へ万歳館建築。伊賀鉄道を大阪電気軌道会社に合併解散す。上野町下水道完成す。七月、上野町長辞職。
12 年 (1937)	80 歳	榊原温泉復興、神湯館開業、二十万円の株式会社とし、乗合自動車を兼営す。
14 年 (1939)	82 歳	榊原陸軍病院療養所開設。清安荘増設開業。
17 年 (1942)	85 歳	金婚式記念扇を配り、金一万円を航空機費に献納す。



▲最晩年の善助

「新しい時代の公」

県民しあわせプラン 三重県総合計画

基本理念 みえけん愛を育む「しあわせ創造県」を県民が主役となって築く

新しい時代の公 従来私的なことと考えられがちだった地域のための自発的な活動を「公」を担う活動として位置づけ、社会全体で支えるための仕組みであり、県民と行政が共に「公」を担うというものです。その活動には、例えば、地域を良くしていこうとする活動や自然環境を守り育てる活動、子どもたちが健やかに育つための地域での取組など、地域の多様な思いを実現し、地域の課題を解決するための県民の皆さんの自主的な活動が含まれます。

伊賀市まちづくりプラン 新市建設計画

将来像 ひとが輝く 地域が輝く ～住み良さが実感できる自立と共生のまち～

基本理念 ▽「市民」が主体となり地域の個性が生きた自治の形成（「補完性の原則」に基づき、市民自身が、あるいは地域が自らの責任のもと、まちづくりの決定や実行をしていきます。また、行政はこれらの活動を支援するとともに自己改革を進めるなど、あらゆる面において自立した自治を形成します）▽持続可能な共生地域の形成▽交流と連携による創造的な地域の形成

* * *

地域主義 regionalism

中央による画一的な管理に対して、地域や地方の独自性と主体性を重んじる考え方をいう。玉野井芳郎は『文明としての経済』（潮出版社、1973年）のなかで「地域に生きる生活者たちが、その自然・歴史・風土を背景にその地域社会また共同体に対して一体感を持ち、経済の自主性をふまえて、自らの政治的・行政的自律性と文化的独自性を追求すること」と規定した。